



北
北
北

海
道

道
ト

東

北



第4号

岩手わんこそばラウンド



(2杯目)

H26.1.4 (土) 岩手大学

12月の牛たんラウンドに続き、第4回の北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会が岩手大学において開催されました。岩手から17名、北海道、秋田、宮城、山形、栃木、千葉、鹿児島から12名、計29名の参加がありました。4名ずつの小グループで小、中、高、大、行政それぞれの立場から意見交換を行いました。



カレントトピックス

鹿屋体育大学佐藤豊先生から「体育・保健体育ネットワーク」HPの紹介、台湾火鍋ラウンドの報告、新学習指導要領実施に関わる私見、そして最後には、実際にタブレットを使用しての体づくり運動アプリの活用の仕方について、情報提供いただきました。

形式的な授業評価の生かし方や「知識、思考・判断」及び「態度」のとらえ方など、どの情報も興味深く、今後の実践・指導に生かせる有益な内容ばかりでした。

実践発表(小学校)

一関市立一関小学校菊池勝彦先生から、「運動好きの子どもを育てる体育授業」の実践発表がありました。

「できる」ようにするための意欲づけの定番セットメニューやドリルゲームについて、「わかる」ようにするためのルール作りや作戦の選択、「かかわる」ようにするための多様なグループへの対応について具体的な説明がありました。

子どもたちの実態に応じた適切な手立てが組まれており、成果の上がる授業展開でした。

とても参考となる実践でした。



実践紹介

スポーツ健康課佐藤典夫指導主事より、岩手県立盛岡南高等学校で実践された「ダンス」及び「保健」における「仲間との関わりを育成する学習形態の工夫」にかかる研究の実践紹介がありました。

「ダンス」における男女共習の学習形態の工夫や自由に表現する活動、違いやよさを認め合う活動の有効性を確認することができました。

「保健」では、手紙やポスターセッション、ブレインストーミング、男女混合グループの手立てによる効果について、共有することができました。

実践発表(中学校)

盛岡市立城西中学校中野達也先生から、「運動の日常化に取り組む体育授業」の実践発表がありました。

指導と評価の計画や、ゴール前の空いている場所に動くことができるようにするための段階的な指導についての発表でした。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査との比較で、全国比を10ポイント以上上回る項目が多数あるなどの成果を上げた実践でした。体育授業の充実を図ることが、授業の楽しさを実感させ、そのことによって運動好きを増やし運動の日常化につなげていけることを学びました。

情報提供

盛岡体育学習会世話人の菅原純也先生より、岩手体育学習会から情報提供がありました。

これまでの活動の様子に加え、学習会への講師派遣交流や作成物の協力など、今後も各地区との連携を大切に活動を行っていききたいとの話でした。

情報交換会も参加者29名中22名参加という高い出席率で盛り上がりました。次回は2月1日(土)秋田きりたんぼ(鍋)ラウンドです！